

開催報告

「九州沖縄地域 マッチングフォーラム」開催報告

地域マッチングフォーラムは農業現場のニーズを踏まえた農業研究の推進、および、研究成果を普及して地域農業の振興を図ることを目的に各地域で毎年開催しています。フォーラムは生産者、農業団体、普及関係者、研究者等が意見や情報を交換する場にもなります。本年は、環境への負荷軽減等に対する国民の関心が高まり、農業に頼らない土壤病害虫防除が課題となっていることから宮崎市の「JA・AZM（アズム）ホール」で「環境に優しい技術で土壤病害虫に立ち向かう！」をテーマに「九州沖縄地域 マッチングフォーラム」を9月12日（水曜日）に開催しました。

フォーラムでは、“宮崎発！太陽熱を利用した土壤消毒の今後の展開（宮崎型改良陽熱消毒法）”、“線虫抑制作物のかしこい使い方”および“農業に頼らない新しい技術で、野菜を枯らす土壤病害に立ち向かう！”の3つの話題について研究者、生産者等が発表を行った後、フォーラムの参加者と意見交換を行いました。また、九州沖縄各県や九州管内の独法機関等の研究成果のパネル展示や技術相談も同じ会場で行いました。

“宮崎型改良陽熱消毒法”は、従来の陽熱消毒法と異なり、堆肥・基肥を施用して耕耘・畦立て後に散水して土壤水分を高め、ビニールで被覆して太陽熱土壤消毒処理（40℃以上の地温で2週間以上）を

行い、そのまま苗を定植する方法です。従来法と異なり、消毒した土壌をあまり動かさないで再汚染しにくい長所がありますが、土壌中の有用微生物も少なくなるので硝酸化成菌資材の添加などの工夫も必要になります。この“宮崎型改良陽熱消毒法”について、宮崎県の営農支援課専門技術指導担当者および都農町のミニトマト農家生産者が発表を行いました。また、“線虫抑制作物のかしこい使い方”では、エンバク品種「たちいぶき」を秋作で栽培して後作サツマイモのネコブセンチュウ被害を抑制する技術を紹介し、“農業に頼らない新しい技術で、野菜を枯らす土壤病害に立ち向かう！”では、宮崎県で育成開発したピーマンの土壤病害複合抵抗性台木「みやざき台木3号」や残さを腐熟処理してキュウリ緑斑モザイク病を防除する技術を紹介しました。どの技術もフォーラム参加者の関心が高く、質疑応答形式での意見交換の時間が足りなくなるほどでした。

土壤消毒で用いられることの多い臭化メチル剤は、本年（平成24年）末に全廃される予定です。今回のフォーラム開催が環境に優しい防除技術のさらなる普及活用につながることを期待しています。

また、フォーラムに参加された方や関係者にも厚く御礼申し上げます。

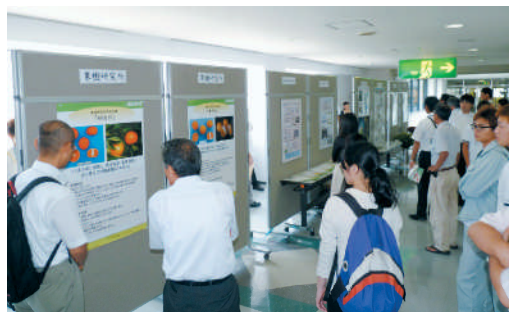
なお、フォーラムの講演要旨等は下記のURLに掲載しています。【広報普及室】

平成24年度九州沖縄地域マッチングフォーラム

http://www.naro.affrc.go.jp/project/research_activities/laboratory/karc/044099.html



フォーラムでの講演者による発表



パネル展示と技術相談

九州沖縄農業研究センター
ニュース No.41
平成24年12月3日発行

編集・発行

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
九州沖縄農業研究センター広報普及室
〒861-1192 熊本県合志市須屋2421
TEL.096-242-7780,7530 FAX.096-249-1002
公式ウェブサイト <http://www.naro.affrc.go.jp/karc/>
(新しくなりました)